

研究人材の育成・確保を巡る主な論点（案）

※ ○印の事項は特に合同部会で議論することを想定

1. 研究人材の育成・確保の意義の再確認について

- 第4次産業革命やグローバル化の進展、少子高齢化・人口減少の進行など、研究人材を取り巻く環境が大きく変化する中で、研究人材の育成・確保の意義を再確認する必要があるのではないか。

2. 研究人材の育成・確保の現状・課題への対応について

<研究人材を巡る国際的動向>

- 以下のような研究人材を巡る国際的動向は、我が国の国際競争力や研究人材の育成・確保等にいかなる影響を及ぼすことが考えられるか。また、第4次産業革命の進展や人口減少の進行等を踏まえ、どのような対応が求められるか。

- ◇ 米国や中国が博士号取得者数を急激に増やす中、我が国は2001年以降、同水準で推移している状況
- ◇ 研究者の国際移動において我が国が研究ネットワークの中核から外れている状況
- ◇ 人口100万人当たりの博士号取得者数や企業研究者に占める博士号取得者の割合が諸外国に比べて少ない状況

<博士課程への進学状況>

- 以下のような博士課程への進学状況は、我が国の研究人材の育成・確保等にいかなる影響を及ぼすことが考えられるか。また、第4次産業革命の進展や人口減少の進行等を踏まえ、どのような対応が求められるか。

- ◇ 博士課程への進学率及び進学者数の減少が続いている状況
- ◇ 今後、若年人口のさらなる減少が見込まれる状況

<研究人材のキャリア形成状況>

- 以下のような研究人材のキャリア形成状況は、我が国の研究人材の育成・確保等にいかなる影響を及ぼすことが考えられるか。また、第4次産業革命の進展や人口減少の進行等を踏まえ、どのような対応が求められるか。

- ◇ 修士課程から博士課程へ進学した修了者の就職率は約6割である状況
- ◇ 博士課程への社会人入学者数も増加傾向にあり、社会人学生の修了者の就業率は約8割と高い状況
- ◇ ポストドクターであり続ける者が一定程度存在している状況

<若手研究人材の研究・雇用環境の状況>

- 以下のような若手研究人材の研究・雇用環境の状況は、我が国の研究人材の育成・確保等にいかなる影響を及ぼすことが考えられるか。また、第4次産業革命の進展や人口減少の進行等を踏まえ、どのような対応が求められるか。

- ◇ 大学の本務教員が増えている中で、本務教員に占める40歳未満の若手教員の割合が低下し続けており、任期なし教員ポストのシニア化と、若手教員の任期付きポストの増加が進んでいる状況
- ◇ 一部の分野で大学教員の全職務時間における研究時間割合が減少傾向にある状況

<研究人材の多様性・流動性の状況>

- 以下のような研究人材の多様性・流動性の状況は、我が国の国際競争力や研究人材の育成・確保等にいかなる影響を及ぼすことが考えられるか。また、第4次産業革命の進展や人口減少の進行等を踏まえ、どのような対応が求められるか。

- ◇ 博士課程への社会人入学者数が増加傾向にある状況
- ◇ 大学における女性教員の採用割合は上昇してきているが、上位職の女性教員の割合は依然として低い状況
- ◇ 大学院在学者に占める外国人学生の割合が増加傾向にある状況
- ◇ 我が国から海外への派遣研究者数については、短期派遣は増加傾向にあるが、中長期派遣はピーク時の7割程度に減少している状況